



2016年8月15日

## 戦後71年目の8月15日における JEA 社会委員会からの祈りの呼びかけ

日本福音同盟(JEA)加盟の諸教会、諸団体の皆様へ

私たち日本のキリスト教会は、第二次世界大戦戦時下において、皇国史観のナショナリズムに迎合して神社参拝という偶像礼拝の罪を犯しただけでなく、皇国の道に従うことを第一としてアジア諸国への侵略加害に加担しました。そのような私たちが、戦後、伝道活動を再開し、71年間にわたってこの日本の地に福音を告げ知らせ、主イエスの十字架の愛に基づく平和を造り出す者として生かされてきたことは、神の憐れみ以外の何ものでもありません。71年目の8月15日を迎え、主の豊かな憐れみと導きに感謝をささげるとともに、以下の祈りを共に祈りたいと願います。

1. 第二次世界大戦戦時下において、私たちは皇国史観のナショナリズムに迎合し、現人神とされた天皇を拝み、神社参拝という偶像礼拝の罪を犯しました。このことを悔い改め、唯一真の神であられるあなたの御前に懺悔いたします。現在の政治・社会情勢の中においても、「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない」(出エジプト20:3)との御言葉に忠実に、喜びをもってあなただけを礼拝し、十字架の死によって私たちの罪を贖い、復活して永遠の命を与えてくださったイエス・キリストだけを主と告白する信仰に堅く立たせてください。また、戦時下の生きた証言を聞くことができなくなりつつある今、この悔い改めと信仰の決意を次世代に伝える者とさせてください。
2. 私たちは聖書によって、国家と教会が共に神の主権の下に立つ、二種の相異なる正統な秩序であることを認め、政教分離の原則に基づき、信教自由の基本的な人権を保護する現行日本国憲法を、その点に関して聖書的に認めて支持します(日本宣教百年記念聖書信仰運動大会宣言より)。先の大戦下において、この政教分離の原則が無視され、信仰の自由が著しく圧迫された過去にかんがみて、今日における政教分離の軽視、信仰の自由を脅かす動きに警鐘を鳴らし、あなたが「正義によって治め」(イザヤ32:1)られる方であることをこの地上においても現していきたいと願っています。どうか私たちにあなたの正義を正しく理解し、あなたの御心にかなった国家と教会の実現することができるよう行動する知恵と力を与えてください。また、この国の為政者たちがあなたを畏れ、あなたから託された権威と力を正しく行使し、あなたの御心を行う者となるように導いてください。
3. 私たちはまた、先の大戦下で皇国の道に従うことを第一としてアジア諸国への侵略加害に加担しました。多くの苦しみと痛みをアジア諸国の人々に与えたことに対して、あなたの御前で謝罪します。そして「ご自分の肉において、敵意を廃棄された方」(エペソ2:15)である主イエスに倣い、アジア福音同盟(AEA)などの関わりを通して、アジア諸国の兄弟姉妹との和解と相互理解に努め、アジアにおけるキリストにある平和実現に貢献することができるよう助け導いてください。

上記のような悔い改めと願いをもつ私たちにとって、かつての天皇制軍国主義の精神的支柱であり、アジア諸国の人々にとっては加害者を合祀している靖国神社に首相および閣僚らが参拝することは、政教分離を定めた日本国憲法第20条違反であるだけでなく、当時の信仰弾圧を思い起こさせ、天皇制軍国主義再来の脅威を抱かせるものです。私たちは、二度とそのような国家体制に至らせないよう、この国の為政者たちが道を踏み外すことがないように祈り、監視し、「荒野の呼ばわる者の声」(イザヤ40:3)として、国家が獣化すること(ヨハネ黙示録13章)に抵抗し、神の国がこの地上で拡大し、個人の尊厳が大切にされ、自由と人権と平和が守られ、「私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごす」(1テモテ2:2)ことのできる社会が構築されるよう、この国のクリスチャンとして責任を果たしていきたいと願います。

「すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。」(1テモテ2:1)

J E A 社会委員会  
委員長 柴田智悦